

泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展Ⅱ

# 光陰礼讃



IN PRAISE  
OF  
LIGHTS

AND  
SHADOWS

WESTERN PAINTING  
OF  
SUMITOMO COLLECTION



モネからはじまる  
住友洋画コレクション

2022 5.21 SAT → 7.31 SUN

【開館時間】11:00～18:00 \*金曜日は19:00まで開館 \*入館は閉館の30分前まで

【休館日】月曜日、7月19日(火) \*7月18日(月・祝)は開館

【入館料】一般1,000円(800円)、高大生600円(500円)、中学生以下無料

\*20名様以上の団体は( )内の割引料金 \*障がい者手帳ご提示のかたはご本人および同伴者1名まで無料

【主催】公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社

TMH  
OUAE  
YUEN  
OKU  
MOKU  
AN

東京 博古館 泉屋

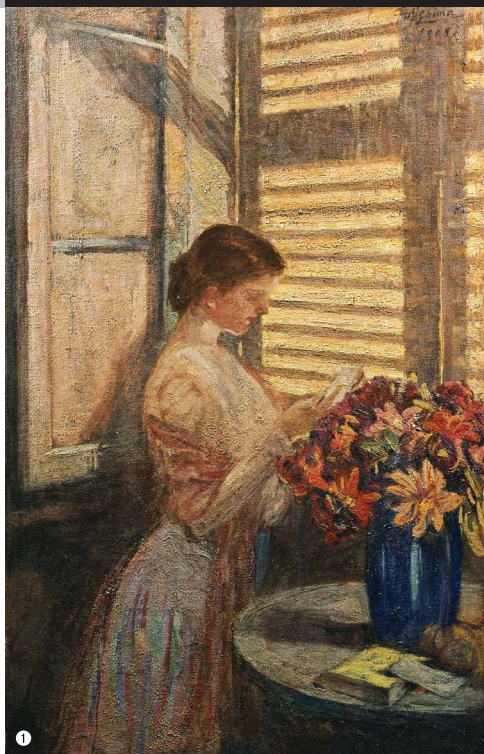


上: クロード・モネ《モンソー公園》(部分) 1876年

下: ジャン＝ポール・ローランス《マルソー将軍の遺体の前のオーストリアの参謀たち》(部分) 1877年

住友コレクションの一角を占める近代洋画は、住友吉左衛門友純（春翠）が明治30年（1897）の欧米視察中のパリで印象派の画家モネの油彩画2点を入手した事に始まりますが、その一方で同時代のジャン＝ポール・ローランスなどフランス・アカデミーの古典派絵画も収集しました。19世紀末のフランス絵画は、印象派の台頭とともに古典的写実派が次第に衰退していく様相を示すことになりますが、住友洋画コレクションには同時代の印象派と古典派の作品がともに揃って収集されているところに特徴があります。

本展は、光を追求めた印象派と陰影表現による実在感を追究した古典派を「光陰」と捉え、この「光陰」二つの流れから滋養を受けて展開した日本近代洋画の数々を絵画史の流れにそって紹介するものです。「光陰」とは本来「歳月」や「月日」の謂いですが、明治・大正・昭和という激動の時代を経て今に伝わる作品たちがぐぐり抜けてきた歳月にも思いを馳せていただければ幸いです。



- ① 藤島武二《幸ある朝》1908年 ② 鹿子木孟郎《ノルマンディーの浜》1907年  
③ ルノワール《静物》1905年頃 ④ 浅井忠《河畔洋館》1902年  
⑤ 岡田三郎助《五葉篇》1909年 ⑥ 岸田劉生《二人麗子図（童女飾髪図）》1922年

### 会期中のイベント（すべて要観覧券）

特別講演会「住友春翠と建築家・野口孫市たち」

6月24日（金）17:00～18:30（要事前申込）

【講師】 林和久氏（工学博士）

特別講演会「知られざる蒐集－住友洋画コレクションの特質」

7月16日（土）14:00～15:30（要事前申込）

【講師】 三浦篤氏（東京大学総合文化研究科教授、美術史家）

スライド・レクチャー「詳しくすぎる作品解説」

会期中毎週金曜日（但し、6月24日は除く） 17:00～18:00

【講師】 野地耕一郎（当館・館長）

※各プログラムの詳細、お申込みについては当館ウェブサイトをご覧ください。

#### 【アクセス案内】

- 東京メトロ・南北線「六本木一丁目」駅下車  
北改札正面出口より屋外エスカレーターで3分
  - 日比谷線「神谷町」駅下車・4b出口より徒歩10分
  - 銀座線「溜池山王」駅下車・13番出口より徒歩10分
- 〒106-0032 東京都港区六本木1-5-1  
TEL 050-5541-8600（ハローダイヤル）

f @SenOkuHakukoKanTokyo

t @SenOkuTokyo

ig @senokuhakukokanmuseum\_tokyo

- 作品はすべて当館所蔵。
- 新型コロナウイルス感染症予防・拡散防止のため、予定を変更・中止する場合がございます。最新の情報は当館ウェブサイトをご確認ください。



泉屋博古館東京

SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM TOKYO